

請 願 文 書 表

受理番号	請 願 第 5 号
件名	飼料価格の高騰による農家負担の軽減と国産飼料の増産 ,循環型畜産の発展を図る施策を求める意見書の提出について
紹介議員	明戸和枝
要旨	<p>飼料価格の高騰が畜産経営を直撃し ,農家は「このままでは将来の経営が全く見通せない」という状態にまで追い込まれています。配合飼料価格の変動が畜産経営に与える影響を緩和する目的で ,生産者と配合飼料メーカー ,国が積み立てた基金をもとに値上がり分を補てんする配合飼料価格安定制度も ,早晚破綻すると言われてています。</p> <p>配合飼料の工場渡し価格は ,昨年7 - 10 月期から4期連続で値上がりし ,同期比で1トン当たり約1万2,000円も上昇しました。配合飼料価格安定制度に基づく補てんが行われていますが ,それでも農家の負担は1トン当たり約5,000円もふえています。</p> <p>今回の飼料価格の高騰は ,不作などによる一時的な値上がりではありません。アメリカ政府がバイオ燃料の大増産を打ち出し ,飼料の主原料であるトウモロコシのシカゴ相場が前年の2倍以上にはね上がっているためです。しかもアメリカ農務省は ,トウモロコシ相場がこのまま高どまりすると予測しています。</p> <p>飼料の高騰が続き ,配合飼料価格安定制度の積立金が底をつけば ,負担がもろに農家を直撃します。配合飼料価格安定制度を破綻させないために国が基金を積み増しすること ,加工原料乳生産者補給金や食肉 ,子牛の基準価格を引き上げ ,畜産経営の安定を図ることが焦眉の課題です。</p> <p>(裏面につづく)</p>
付託 年月日 委員会	平成19年 9月18日 文教経済常任委員会
受 理	平成19年 9月10日 第1081号

日本の畜産は、国民に良質のたんぱく源を供給してきました。最近特に、アメリカの B S E 問題を初めとする輸入畜産物の安全性に対する不安や相次いで引き起こされている一部の悪徳業者による偽装事件などによって、安全で素性のはっきりした国産の食肉、乳製品への需要が高まっています。

日本の畜産が将来にわたって安定的に発展するには、わずか 25% の飼料自給率を引き上げ、輸入飼料への依存を脱却し、循環型の畜産経営に転換していくことが不可欠です。転作田におけるホールクroppサイレージ用稲の栽培や残飯の飼料への再処理、マイペース酪農など、多様な試みが農家や関係者の努力によって各地で取り組まれています。政府としてもこれらを支援し普及していくことが必要です。

以上の趣旨から、下記の事項について政府及び関係機関に意見書を提出して下さるよう請願いたします。

記

- 1 配合飼料価格生産者安定制度の基金に、国が積み増しすること。
- 1 加工原料乳補給金や食肉、子牛の基準価格を引き上げること。
- 1 国産飼料を増産して、輸入飼料への依存を脱却する取り組みへの支援を抜本的に強めること。